

平成 25 年度 香川県特色ある体力づくり推進学校(園)表彰調査票

記載責任者名 (稲益かおり)

学校(園)名	多度津町立四箇幼稚園	学校(園)長名	
		塩田 節子	
学校所在地	香川県仲多度郡多度津町三井 4 4 0 電話 (0 8 7 7) 3 2 - 5 0 6 2	児童生徒数	学級数
		6 5 人	3 学級

1 体力づくりを推進する上での学校(園)の課題

※ 運動習慣や生活習慣、食習慣等、または、子どもや保護者等の面から

- ・生活そのものの中で親も子どもも歩くことが少なくなり、移動手段のほとんどは自動車を利用している。徒歩で登降園することを呼びかけているものの、なかなか定着していない。しっかりと歩くことができる体力や持久力を身につけていく必要がある。
- ・降園後は室内で過ごし、運動的な遊びをすることが少なくなっている。いろいろな遊び方を知らない子どもも多く、幼稚園でしっかりと体を動かして遊べるよう活動を考えていく必要がある。また、親子で一緒に遊ぶ楽しさや触れ合う大切さを知らせ、家庭でも運動遊びを楽しめるよう啓発していく。
- ・みんなで食べる給食を楽しみにしている一方で、偏食や食欲不振の子が見られる。栽培・収穫体験を通して食に興味をもったり、食べる意欲へつなげたりして食生活への関心を深めていくことが必要である。

2 平成 25 年度の体力づくりの重点目標と全体計画

(1) 重点目標

心と体を動かして遊び込む子どもを育てる。

(2) 全体計画

○日々の保育の中で

- ・毎日の遊びの中から次々に工夫をしたり、新しく発展させたりして子どもたちが自ら遊びをつくっていく過程を大切に、しっかりと体を動かして遊び込める援助について考える。

○保護者に向けて

- ・親子での活動を大切にしたい取り組みを考え、子どもたちが喜んで参加できるような内容を工夫する。
- ・園・クラスだよりを通して子どもたちの様子を伝え、家庭と連携して幼児期に必要な生活習慣を身につけていく。

○地域との交流

- ・地域の特性を生かした自然体験や社会体験の充実を図り、協力者とのかかわりを深めながら豊かな体験活動を継続していく。

3 体力づくりの取組状況

(1) 重点的に取り組んでいる項目に○をつけてください。

項 目	○をつける
ア 戸外遊びができる時間と場（園庭環境等）を確保している<幼稚園>	○
イ 園外保育を積極的に行っている<幼稚園>	○
ウ 教材・教具や場を工夫したりして体育の授業を行っている	
エ 始業前や授業の間の時間等を利用して体を動かす機会を設定している	
オ 意欲的に取り組める行事の工夫をしている	○
カ 運動部活動の運営を工夫している<中学校>	
キ 家庭や地域と連携して、園児、児童生徒の体力向上に取り組んでいる	○
ク 望ましい生活習慣、食習慣を確立する取組を進めている	○

(2) (1)で○をつけた項目について取組の内容や方法等を書いてください。

ア 戸外あそびができる時間と場（園庭環境等）を確保している。

- ・今までとは違う遊びや遊具の使い方を見つけて、遊び込むことができるように園庭環境を見直している。

○はだし王国…芝生広場を裸足になって利用することで芝生の心地よさを感じてのびのびと体を動かして楽しむ場となるよう工夫している。

○木登りランド…園のシンボルともいえるケヤキに、はしごを取り付け、木の上の解放感を味わったり、いろいろな遊びを楽しめるよう工夫している。

○固定遊具…遊び場が変化していく中で、これまでとは違った使い方を考えたり、運動遊具を組み合わせで遊んだりして、遊びを作り出す面白さを味わえるよう工夫している。

- ・遊びの様子や個々の思いを読み取ることを大切にし、それぞれの遊びが継続したり、発展したりしていくよう援助している。



イ 園外保育を積極的に行っている。

- ・地域との触れ合いの場であることを大切にし、年間を通して出かけていくことで季節を感じたり、新しい発見をしたりできるよう計画している。体験活動へ出かけて行くことも歩く機会ととらえて取り組んでいる。

オ 意欲的に取り組める行事の工夫をしている。

- ・子どもたちが日々の遊びを楽しむ中から考えた内容や意見を行事に取り入れている。自分たちの意見が入ることで意欲も高まり、行事自体が子どもたちのものとなって毎回変化してきている。それぞれの発達に応じて体を動かすことのできる遊びを楽しめるように活動を工夫している。

キ 家庭や地域と連携して、園児、児童生徒の体力向上に取り組んでいる。

- ・親子で運動遊びができるような活動を積極的に取り入れている。活動を通して、子どもの成長の様子を見るだけでなく、親子で触れ合って過ごす時間を大切にしている。
- ・地域の方の協力で、田植え前に泥んこ遊びを経験している。心も体も泥んこまみれになって泥の冷たさや田んぼのドロドロを全身で体感し、園庭とは違う解放感やのびのびと体全体を動かすことの心地よさを感じられるような活動を取り入れている。



一緒に体を動かすと気持ちいいね!!

ク 望ましい生活習慣、食習慣を確立する取組を進めている。

- ・野菜栽培や収穫体験、親子夏野菜栽培などの体験活動を取り入れている。栽培・収穫・調理を親子でも経験し、食への意欲や関心が高まるよう取り組んでいる。

4 成果と課題

※ 上記の取組において、明らかになった成果と課題を書いてください。なお、新体力テスト等数値で表された資料等がありましたら添付して提出してください。

○日々の保育の中で

- ・遊び場を見直していく中で、自分たちで考えたり、工夫したりして、いつもとは違う遊びを楽しめるようになった。子どもたちの思いから生まれた遊びだからこそ、何でも楽しみ、もっと面白いことをやってみよう、遊びたいという意欲につながっていった。遊びそのもののイメージが広がり、全身を使って遊び込むことができるようになったことで、自然に体力向上へとつながってきている。
- ・子どもたちの遊びを共通の意識をもって職員間で話し合うことで、いろいろな面から個々の育ちをとらえられると改めて感じた。日々の保育を振り返り、自分自身の保育に生かしていきたい。

○保護者に向けて

- ・親子で触れ合い、参加する活動を取り入れたことで、子どもたちも普段より嬉しそうにしており、親子の活動の大切さを改めて感じた。保護者の関心が薄れていくことがないように引き続き発信していく必要がある。

○地域との交流

- ・地域へ出かけていくことで歩く経験にもつながっている。園内にはない解放感や全身を動かす心地よさを感じられる活動を今後も継続していきたい。
- ・体験活動は自分たちで栽培・収穫をする喜びを感じたり、みんなで食べる楽しさを味わったりすることができる貴重な場となっている。自分たちで育てたものを実際に口にすることで、食べ物大切さに気づくことができるよう今後も取り組みを続けていきたい。